

日本海大和堆周辺域におけるドスイカ稚仔の出現(要旨)

永澤 亨・梶原 直人

(日本海区水産研究所)

ドスイカ (*Berryteuthis magister*) は北太平洋一帯、ベーリング海、オホーツク海、日本海などに多量に分布する亜寒帯性のイカ類である。その稚仔の出現については北太平洋、オホーツク海、ベーリング海からの多くの採集例が知られているが、今まで日本海からの稚仔の出現は報告されていない。筆者らは1988年6月に大和堆においてプランクトン調査を行ったところ、72個体のドスイカと判断される稚仔を採集した。調査は大和堆周辺の計11点で、ノルパックネットの鉛直曳採集およびMTDネットによる各層採集を実施したが、ドスイカと判断された稚仔はすべて大和堆南方の39°00'N, 135°00'Eにおいて行ったMTD各層曳採集によって得られ、その出現水深は700mであり、他の層からは全く採集されなかった。このときの700m層水温は0.29℃であり塩分は34.075であった。また稚仔の濾水量1,000m³あたりの採集量は231とかなり高い値を示し、本稚仔の分布がかなり集中的なものであったことが推定される。この調査の他にも大和堆周辺を含む日本海域においてリングネットを用いた75m深からの傾斜曳採集や表層曳採集が数多く行われているがドスイカと考えられる稚仔はいずれからも得られていない。従って、日本海においてはドスイカ稚仔は表層には分布しないものと判断される。

得られた稚仔の外套背長(DML)は8.0mmから10.4mmとほぼ同じサイズのもので、外套幅(MW)のDMLに対する比率は43.2%から67.5%で平均は56.4%と北部北太平洋で得られた値40-45%よりもやや大きく、範囲も広い。また得られた72個体の中には触腕の形態などに2型が認められ、吸盤の数もいままで記載されているドスイカ稚仔のものより多いことから形態が未記載のGonatidae稚仔が含まれている可能性もある。

オホーツク海、ベーリング海などでの採集例ではドスイカ稚仔は表層で多く採集されており、この海域における表層の塩分濃度は日本海よりもかなり小さい。これらの採集層における水温と塩分の値を比較したところ、ドスイカ稚仔は塩分濃度の高い海域では塩分濃度の低い海域よりも低温の層に分布することが示唆された。

詳細は稚仔の帰属を再検討した後に投稿予定